

お寺の境内に生まれた 手づくり品のフリーマーケット

知恩寺（百万遍さんの「手づくり市」）

心がこもった作品が
交流と信頼を生み出す

京都大学の本部構内から道一つ隔てた北側にある知恩寺（大本山百萬遍知恩寺）は、浄土宗の七大本山の一つだが、平日は、近所の人が犬を散歩させたりできる静かで穏やかな寺だ。ところがここが毎月一五日になると、時にはわざわざ観光バスでやってくる人たちもいるほどの賑わいを見せる。いまや京都の名物とまで言われるようになったフリーマーケットの「手づくり市」が開催されるからだ。

当日の境内では、奥まった御影堂前を中心に約五〇〇もの店がビッシリ並び、出展者がそれぞれ手づくりした品々を並べる。午前九時頃から午後四時まで市は開催されるが、早朝から大勢の客が待つほどで、最盛期には人がすれ違うのも大変なほど混み合う。それもそのはず、一日に訪れる客は、老若男女合わせて約一万人にものぼり、京阪電鉄「出町柳」駅から続く道も普段



他では見ることができないような個性的な品々があるのも人気の秘密



行列ができていたパンの店。食の安全が問われる時代だからこそ、無添加でおいしい手づくりパンが、いっそう人気を集めるのが分かる



お寺の境内を活かしてフリーマーケットを開く発想は、まさに京都ならではの

手づくりだけに、まさに「オンリーワン」の作品が手に入る



大本山百萬遍知恩寺の正面入り口

「手づくり市」問い合わせ先

「手づくり市」事務局

TEL.075-771-1631(10時~15時)

なお出展は往復はがきのみの受け付けで、
抽選によって決められている。

詳細は<http://www.tedukuri-ichi.com/>を参照



主催者の榎本潔さんと臼井郁司さんは、天候不順をはじめとする幾多の困難を乗り越え、20年を超えて「手づくり市」を続けてきた



1回目から出展している、手づくりの服を販売している榎本さんの奥さんの店

の百万遍では考えられないほど混雑する。
「私の妻が服を手づくりしているのです
が、そもそもはその販売場所を求めて、一
九八六年に友人の臼井郁司さんご夫婦と
企画を考え、青空個展会場としてはじめた
のが、もう二五〇回を超えました」と、主催
者のひとり榎本潔さんは説明する。

まだフリーマーケットという言葉が一般に
知られていない頃から、「心がこもった手づ
くりの品でないと出展できない」と謳ってき
たコンセプトは、いまだに守られている。

「仕入れてきた物は原則的に販売ができ
ません。ですから最初の頃は、編み物教室や
陶芸教室、レザークラフト教室といった文化
教室などに通っている人たちに声をかけて
集まっていたのですが、わずか四〇〇
五〇軒しか出展はありませんでした」と榎
本さん。手づくりへのこだわりが、他のフリ
ーマーケットやガレージセールとは一線を画
すことになり、やがて、ここから多くのアー
チストが育ち、それによって、さらに人気を
集めるようになった。「こへの出展をきつ
かにキーキの店を開いたという長澤とよ海
さんは、「直にお客さまの反応を見ることが
できて、これなら『売れそう』と自信を持て
ました」と語る。この市は、手づくり品のや
りとりを通じて、希薄になりがちな、人と
人との触れ合いと信頼の関係を生み出して
きたとも言えるだろう。

(文責・CEL編集室)

CEL